

日 時 平成 30 年 2 月 12 日(月・祝) 14 時 00 分～15 時 30 分
会 場 腰越学習センター 多目的室
出席者 西鎌倉地区 11 名
地域包括支援センター聖テレジア 2 名 聖テレジア第 2 2 名
推進等委員 川上委員長 国分委員 西崎委員
事務局 市社協 相川常務 内藤局長 山本主幹 堀井

西鎌倉地区社協千代会長より挨拶

事務局より本日の出席者紹介及び懇談会の趣旨説明

議事概要

議題

- (1) 講演 地域共生社会づくりに向けて
資料に基づき講演 (川上先生)

議題

- (2) 意見交換

川上先生より現在行なっているアセスメントの資料説明を簡単に行う。

【発言概要】

- ・アセスメントを今後どの様に発展させていこうか困っている。
- ・地域のニーズを探ることが非常に難しいと感じている。
- ・手広地区では住宅は増えてきているが、商店が少なくなっている。
- ・アセスメントを行なって、西鎌倉地域は山・坂が多い地区であることを再認識した。坂の上で何かをやっても高齢者は来られない。
- ・地区社協の拠点が欲しい。拠点があると事務用品なども置けるし活動がスムーズになる。是非、地区社協の拠点を作ってほしい。
- ・市社協へのお願いとして5つあります。
 - ・情報の伝達は重要だが、西鎌倉地区社協はホームページがない。市社協のホームページには地区社協のページがあるので、西鎌倉地区社協とリンクをしてほしい。
 - ・各地域でボランティアが活動しているが、活動中に事故があった場合の保険をかけているが、保険料が値上がったことがネックになっている。出来れば市ないし市社協で保険に対する若干でも援助をしてほしい。
 - ・大規模災害が起きた場合に、行政は誰が職場に駆けつけるなどの体制は出来ていると思うが、市社協は出来ているのか。出来ているのであれば地区社協にも求めるものなのか。
 - ・市社協は横の連携体制が出来ていると思うが、地域の力で困っている方を助けることは各市町村でメニューがあると思うので是非その様な情報を発信してほしい。そのことが活動に結びつくのではないかな。

- ・日ごろから様々なことでお困りな方がいるが、民生委員としてはその様な方々を見守るのは困難な状況であり、包括支援センターにお願いをしている。市社協の方も各地区に出向いて状況を把握してほしい。その為には人員が少ないのではないかと思われる。
- ・認知症の方々がお互いに支え合える場があるといい。
- ・担い手が高齢化して手伝いの方が足りなくなっている。
- ・問題が沢山あることにビックリしている。他人事と思っていたがそうではないと思った。
- ・お弁当を作る活動をしているが、市からの補助がなくなったため3月でやめることになった。
- ・認知症の方を支えることを考えてほしい。
- ・新鎌倉山自治会の現状
 - ・40年～45年前に一気に人が引っ越してこられたため、現在中心になっているのは70代～90代になる。ただ若い方も入ってきていて40代の方も結構いる。残念な事に一番多いはずの団塊の世代がいらない。自治会の活動は55歳から60代の方になると思うが、その世代が残念な事にいない。今の新鎌倉山自治会は2/3は40代の方々になる。70歳以上の方は遠慮されて自治会の活動には出てこない。
 - ・色々な問題に対して40代の方が理解出来るものか。周りが困っているとの情報は入ってくるが、自分たちは困っていない。困っている方と若い方が繋がっていない。
 - ・ホームページも立ち上げたが、継続して自治会でメンテナンス出来るのかなどの問題があがっている。ホームページも簡易になってきているので、まずは1年間運用してみて様子を見ることになった。
 - ・役員の任期は1年になり、1年では何も出来ないと言われてきているが、1年で変わることはいいこともあり、それだけ多くの方が自治会の役員を経験することになる。これから目指そうと思っていることは、自治会は町のことを勉強する学校だと思っている。自分の町でどんなことが起こっているのか、誰が困っているのかなど学んでいく1年だと思っている。その後、地域活動に参加してもらいたい。
 - ・「熟年世代の会」は困りごとを助ける会として15年前から立ち上がっている。
 - ・防犯についてはカチカチ隊が毎日15時と20時に町中を回っている。若い人たちは何の意味があるのか分かっていない。去年は2回防犯の勉強会をして理解を深めた。その様な活動をしている方たちは70代～80代になるので40代の方にも参加してもらいたい。しかし40代の方たちは何のためにやっているか分からない。そのため40代と70代をいかに繋げるか。その様な活動が一番大事ではないかと思う。
 - ・70代の方々が色々な活動をしている。しかしその活動を繋ぐ場所がない。その為、空き家を活用して高齢の方が集まって噂話をしながら町のことに興味をもっていく。そこに若い方が入って繋がりをもっていく。その様な場所が歩ける範囲に何か所かあるといい。その様な場所に空き家を活用出来たらいい。

<川上先生>

- ・ここまで色々な課題が出てきましたが、どの様に発展させていくかとなるが、これは自分たちがどの取組みが出来るか、やらないといけないのか、などの絞り込みの作業になってくると思います。自分たちで出来ない事でも必要なことは市社協へ相談したり行政に要望したり振り分ける段階に

入ってくると思います。

今まで議論された中で気になった点ですが。

- ・社協のホームページに以外に地区社協の紹介ページを作りたいということですか
⇒地域住民より西鎌倉地区社協の話は聞くがホームページがないので、市社協には各地区社協のページがあるので、そこにリンクさせてほしい。
- ・ボランティア保険については今はやっていないのですか。
⇒市社協へ申請したり、ボランティア連絡協議会に入られて支援している地区社協は御座います。ただその様な情報が共有されていなかったり、支援を受けていない地区社協も御座います。今後はどこまで支援できるか各地区社協の会長に相談をしていきたいと思います。各地区社協へは助成金を出しているが、助成金にはメニューがあり各地区社協に任せているので、もう一度各地区社協の需要を踏まえて意見交換をしていきたい。
- ・社協は各地区が見えていないとの意見がありましたが、社協としては地区担当制を来年度に向けて体制づくりをしていくので、決まった職員が情報を把握し、地域の集まりに参加しサポートできるのではないかと考えています。
- ・南鎌倉の自治会は245世帯しかなく、小さな自治会になるが昔は子どもも多くて子供会があり連携をとって様々なイベントが出来たが、子どもが減ってきて子供会が無くなってしまった。親同士が接点を持てる場所は幼稚園などになってしまうため、隣接する地域での情報交換は薄いと思います。私は子どもが3人いるが風邪などを引いてしまった場合は、ご近所に預ければいいが私は地元の出身なので遠慮なく預けられるが、妻は他県の出身の為、近隣の方に頼みにくい。お互い様だが地域の繋がりが昔よりは弱くなってきていると感じています。地域のお祭りも縮小されてきて、地域の繋がりが薄くなって気軽に頼みづらいか情報の共有が難しいなど出てきている。
本日の集まりなども情報発信・共有が出来れば、もしかしたら興味がある方ももっといるかも知れない。何かしら地域に課題を持っている方が集まればいいのではないかと思います。

<川上先生>

- ・地域の課題としては典型的なことが沢山出てきている。坂の上で集まりをやっても登っていけない。この様なことは全国的に見ても多く。例えば「ふれあいサロン」をやる場合、地域の方が車に乗せて会場まで送迎するなどの事例もある。世田谷の方でもスーパーまで買い物に行くのが大変だとのニーズに対して、スーパーに毎日送迎を出してもらう契約を結んでいる自治会もあつたりする。解決手段が行政にコミュニティーバスを走らせてもらうだけではなく、自分達でも出来るかもしれない。あるいは民間活力と上手く連携して新しいサービスを生み出せるかも知れないなど柔軟に解決策を考えてもらえたらと思います。
- ・空き家が出てきているとの意見と、活動する場所が欲しい、気軽に集える場が欲しいとの場所を求めるニーズがある訳ですから、空き家を活用して地域の拠点に出来ないかななどの話も是非広げて行ってほしい。
- ・地区社協だよりもこのアセスメントの活動を掲載して住民に見てもらい、もっと多くの人たちに参加してもらうこともいいと思う。

- ・地域アセスメントはやる前に地図をつくり、回覧を回して地域の方々が参加している。小中学生もアンケートには参加してくれた。地図が出来た段階で行政センターに掲示し意見をいただいたのが今回の内容になる。アンケートは皆さんの「気に入っている所」「危険な場所・気になっている場所」「課題」の3項目でアンケートを取った。スーパーなどはあるが坂の下にある。買い物に関しても、皆さんのニーズが多岐に渡るため、単に販売車が来れば良いと言う訳でもない。そのため、そう簡単にはいかないと思うがニーズを探りつつ考えていきたい。先程話があった様に車を出した場合、万が一事故があった場合どうなるのかなどを考えると中々進まない。

<川上先生>

- ・移動支援の活動は全国で行なっているので、市社協を通じて実践例などを提供してもらいたいと思います。
- ・西鎌倉は鎌倉市では一番高齢化が進んでいる。先程話があった様に皆同じ所に引っ越してきているので世代交代が出来たところもあるが、高齢化率は高い。

<川上先生>

- ・新鎌倉山自治会の役員を中心に40歳代と言うことに驚きましたが、大抵、地域の役員は60～70歳代になると思われる、若い方たちに世代交代が進んでいる理由や特徴など何か仕掛けがあったりしたのですか。
- ・世代交代が進んでいることもあるが、団塊の世代がいなくて一気に変わった感じがする。

<川上先生>

- ・40代の方がいきなり役員になっても高齢者の事は中々分からないと思いますが、何か勉強会などをやっているのですか。
- ・新任だからではなく役員全員に対して勉強会をやっている。勉強会をやる色々な意見は出てくるがそれ以上に発展することは中々ない。カチカチ隊が回っている理由に高齢者がたまに帰り方が分からなくなることがあるが、40代の方たちはその様なことがあること自体知らないと思われる。その様な情報が入ってこない、もしくは昼間は仕事をしているので見かけないのだと思う。

<包括>

- ・今回、地域アセスメントで上がってきた課題は、自分達が普段関わっていること以外のことも沢山あることを再認識しました。地域の方たちの声を大切にしながら活動をしていきたいと思います。
- ・定年になった方がすぐに地域に戻ろうとしてもなかなか戻れないため、55歳くらいから戻る準備をする必要があると思う。自治会の活動をやってみて、この戻ってきてほしい年齢層の方が殆どいないことに気が付いた。70歳以上の方はこれからは若い世代に任せないといけないとの思いがありますが、若い世代は仕事があるので自治会活動はなるべくやらないようになってきている。

- ・西鎌倉は新しく来た住民に役員をやってもらうことが多い。そういった意味では役員会は若返ってきている。若い方たちは元気で、子供会があるところは結構活発に活動している。子育てに抵抗がない方たちが増えてきているので、何かやるときに子供会を動かすとかなり色々な動きが出てくると思っている。若い層を引き込むことがこれからの活動に一番のキーワードになり大事なことだと思います。

<川上先生>

- ・一つ思ったのは「供給する資源はある」「若い人たちはいる」「空き家はある」。しかし片方で「活動する場がない」「人材が足りない」などの悩みを持っている人達もいる。そういった人達が上手く繋がることで大きく地域の形も変わっていくのではないかと思いました。それにはまず情報が上手く共有できる仕組みをつくるのが一つで、もう一つは西鎌倉と言っても地域性があり、西鎌倉地区社協で括るのはもしかすると圏域的に広いのかも知れない。自治会単位でニーズを語り合う必要性も出てくるかも知れません。
- ・計画策定と並行して西鎌倉地区のアセスメントとコラボレーションしながら、落としどころを見出していければいいのではないか。

以上